

日本原子力学会炉物理部会第 30 回会員総会 議事録

平成 20 年 9 月 26 日

日時 平成 20 年 9 月 6 日 (土) 12:00 ~ 13:00

場所 高知工科大学 (日本原子力学会 2008 年秋の大会 A 会場)

配布資料

日本原子力学会炉物理部会第 30 回会員総会 議事

30-1: 平成 20 年度 (第 2 回) 炉物理部会賞の概要

30-2: 第 40 回炉物理夏期セミナー報告

30-3: 第 4 回日韓合同サマースクール (加速器・ビーム科学、核データ、放射線工学、炉物理) 報告

30-4: 「次世代炉物理実験施設活用方策」検討会 開催案内

30-5: 平成 20 年度炉物理部会収支予算 (変更案)・収支中間報告

30-6: 「炉物理の将来展望に関する討論会」会議報告

30-7: 「炉物理の将来展望に関する討論会」の今後の進め方について

30-8: 核データ・炉物理に関する国際シンポジウムの開催について

30-9: 次世代軽水炉での 5wt%超燃料開発への取り組み

30-10: 日本原子力学会創立 50 周年記事依頼

議事

1. 平成 20 年度 (第 2 回) 炉物理部会賞の表彰

平成 20 年度 (第 2 回) 炉物理部会賞の選考結果、概要などが配布資料 30-1 をもとに松村部会長から報告された後、受賞者 (中部電力 渡邊氏、JAEA 西原氏は代理) へ表彰状・副賞が松村部会長から授与された。受賞者を代表して渡邊氏から談話が述べられた。

2. 第 40 回炉物理夏期セミナーの報告

第 40 回炉物理夏期セミナーの概要と収支決算が配布資料 30-2 をもとに肥田、中セミナー両幹事から報告された。また、松村部会長から次期セミナー幹事機関として武蔵工大に要請中であることが紹介された。

3. 第 4 回日韓合同サマースクールの報告

第 4 回日韓合同サマースクールの概要が辻学術担当幹事から配布資料 30-3 をもとに報告された。本スクールには炉物理部会から辻幹事と東工大 石田氏が講師として派遣された。

4. 次世代炉物理実験施設活用方策検討会の設立と承認

次世代炉物理実験施設活用方策検討会の設立経緯が松村部会長から報告された後、設立主旨と第 1 回検討会の概要などが配布資料 30-4 をもとに佐々検討会幹事から報告された。炉物理実験施設の新規設立の必要性、教育面も含めて日本全体で広く検討する意義などが議論された後、本検討会の設立が承認された。今後も検討会開催毎に、炉物理部会で参加者を募ることが佐々幹事より述べられた。

5. 平成 20 年度予算の一部変更の承認と収支の中間報告

上記 4. の検討会設立に関連した平成 20 年度予算の一部変更案と中間収支が配布資料 30-5 をもとに

異財務担当幹事から報告された。JAEA からの賛助金による収入および上記検討会の委員旅費による支出にともなう予算の一部変更が承認された。

6. 炉物理の将来展望に関する討論会の報告

第 1 回炉物理の将来展望に関する討論会の概要が配布資料 30-6 をもとに松村部会長から報告された。第 2 回の開催が配布資料 30-7 をもとに松村部会長から提案され、第 1 回で示されたテーマに関する討論会の開催準備を進めることとした。

7. 核データ・炉物理の日韓合同セッション／国際シンポジウムの提案

原子力学会 2009 年春の大会で核データ・炉物理の合同セッションが計画されているが、これを拡大した国際シンポジウム開催(春の大会翌日 3 月 26 日の予定)が配布資料 30-8 をもとに名古屋大学 山本氏から提案された。本提案は前日の核データ部会会員総会でも行われた。炉物理部会では本シンポジウム開催に向けた調整を開始することとした。

8. 次世代軽水炉での 5wt%超燃料開発への取り組み

次世代軽水炉プロジェクトとその中で利用される 5wt%超燃料の開発状況が配布資料 30-9 などをもとに東芝 三橋氏から報告された。炉物理部会への期待(学会標準、臨界ハンドブック整備などの協力)が示され、今後も本プロジェクトの進捗状況を本部会へ適宜報告し、本部会との連携を議論したいとの説明があった。

9. 原子力学会プログラム編成委員の選出

2009 年春の年会からプログラム編成委員を各部会から選任することとなり、炉物理部会から 5 名を選任(留任 1 名、新任 4 名)することが松村部会長から報告され、了解された。

10. 原子力学会誌 50 周年記念記事の執筆

原子力学会誌 50 周年記念記事の炉物理部会分の執筆要請が配布資料 30-10 をもとに松村部会長から紹介され、部会員による執筆への協力が要請された。

以上